

うつ病の世界的負担を軽減するために一致団結した行動を

—世界的医学雑誌ランセットが特集号—

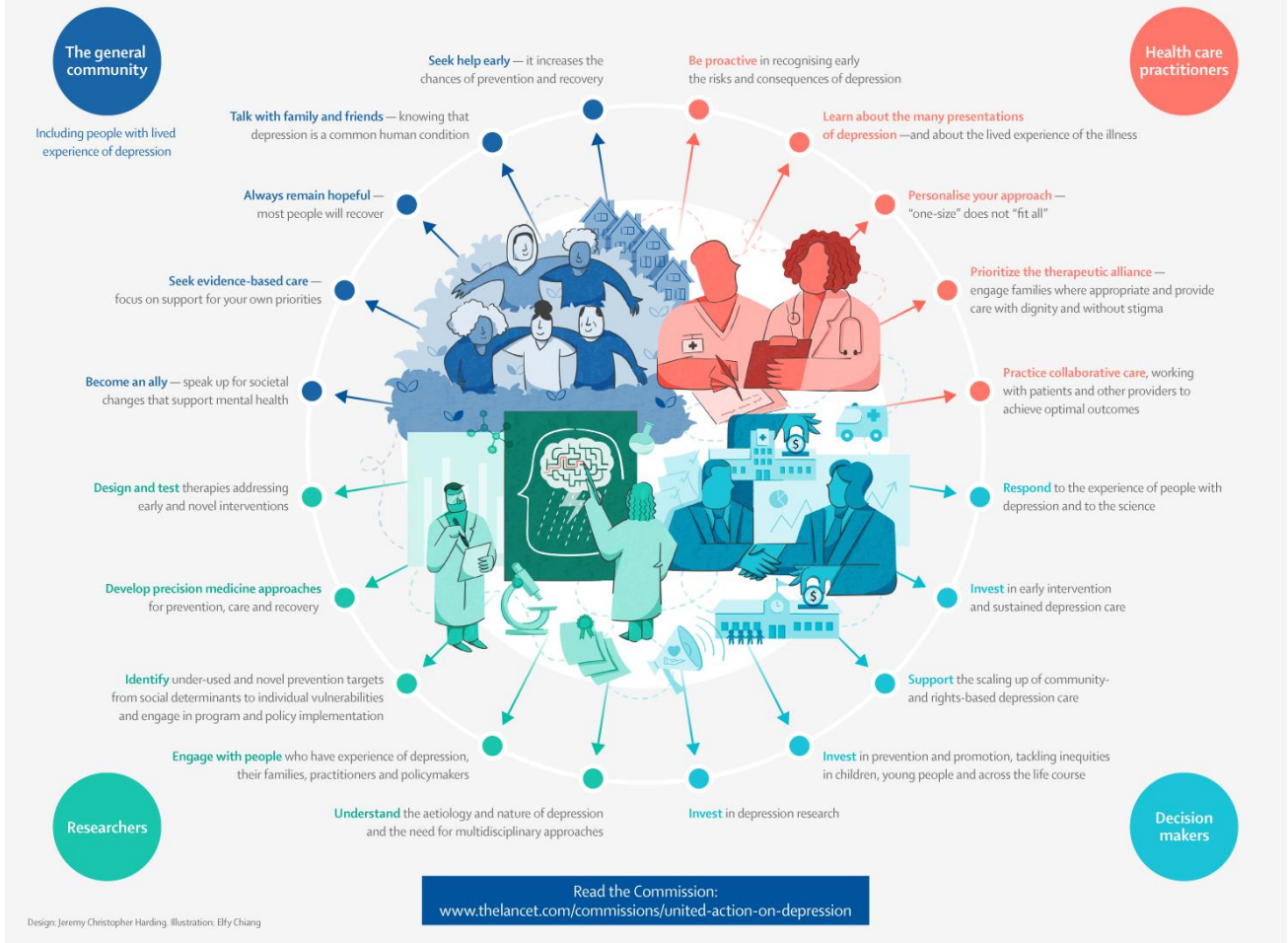
概要

世界をリードする医学総合雑誌ランセット（英国）は、2022年2月15日（日本時間16日）、うつ病の世界的負担を軽減するために一致団結した行動を呼びかける特集号を発表しました。京都大学大学院医学研究科の古川壽亮教授は、神経科学からグローバルヘルスマまで含む幅広い分野の世界11カ国25人の専門家とともにこの宣言をまとめあげました。

- 全世界の成人の5%が毎年うつ病に罹患していると推定されていますが、依然として軽視されている世界的な健康危機であり、とくに若年層での発症が最も多くなっています。
- この疾患に対する理解の低さ、心理社会的・経済的資源の不足が、予防、診断、治療、そして各国の経済的繁栄に影響を及ぼしています。
- Lancet-世界精神医学会委員会は、診断、治療、予防における不公平や広範な無視に取り組むため、革新的な段階的ケアと早期介入を優先し、資源の乏しい環境などにおいて共同ケアを提供するなど、意欲的な勧告を概説しています。
- 専門家は、心臓病や癌などの他の分野と同様の効果を得るために、社会全体でうつ病予防に取り組み、国連の持続可能な開発目標の全体的な追求を確実にすることを呼びかけています。Lancet 誌と世界精神医学会のうつ病に関する委員会は、うつ病の世界的な負担を軽減するための社会全体の対応を求めており、世界が直面しているうつ病の持続的かつますます深刻な世界的危機に対処できていないとしています。
- 資源に乏しい環境であっても、うつ病を予防し、回復を助けるために多くのことができるという多くの証拠があるにもかかわらず、どの年においても、世界中の成人人口の5%がうつ病と共存していると推定されます。高所得国でも、うつ病に苦しむ人々の約半数が診断も治療も受けておらず、低・中所得国では80-90%にも上ります。
- COVID-19の大流行は、社会的孤立、死別、不確実性、苦難、医療への限られたアクセスなど、さらなる課題を生み出し、何百万もの人々の精神衛生に深刻な打撃を与えています。
- このような背景から、委員会は「うつ病に対して世界が一致団結して行動するときが来た」と呼びかけ、政府、医療従事者、研究者、うつ病患者やその家族による協調的・協力的努力を求め、ケアと予防の改善、知識のギャップの解消、認知度の向上により、回避できる苦痛と早すぎる死の主要原因の1つに世界で取り組んでいくことを宣言しています。

Reducing the burden of depression requires united action by diverse stakeholders

Recommendations from Time for united action on depression: a Lancet–World Psychiatric Association Commission



THE LANCET

The best science for better lives

図. うつ病による負担を減らすためには、さまざまなステークホルダーによる一致団結した行動が必要である

<p>左上：一般社会（当事者を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 早くから援助を求めよう 家族友人と話し合おう 常に希望を失わずに エビデンスのある治療を求めよう サポーターになろう 	<p>右上：医療者</p> <ul style="list-style-type: none"> うつ病に対して受け身になるな うつ病のさまざまな状態象を知ろう 個人ごとにアプローチ 治療同盟が第一 共同治療を実践しよう
<p>左下：研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい治療をデザインして試験しよう 精密医療アプローチを開発しよう 新たな予防ターゲットを同定しよう 当事者と協力しよう 学際的アプローチの重要性を理解しよう 	<p>右下：政策決定者</p> <ul style="list-style-type: none"> 当事者の経験とサイエンスに耳を傾けよう 早期介入と治療継続に投資しよう 地域レベルでうつ病治療を均てん化しよう 人生を通じて機会不均等を是正する予防に投資しよう うつ病研究に投資しよう

<論文タイトルと著者>

タイトル：Time for united action on depression: a Lancet–World Psychiatric Association Commission（うつ病に対して一致団結した行動を取る時が来た：ランセット＝世界精神医学会委員会）

著者：Helen Herrman, Vikram Patel, Christian Kieling, Michael Berk, Claudia Buchweitz, Pim Cuijpers, Toshiaki A Furukawa, Ronald C Kessler, Brandon A Kohrt, Mario Maj, Patrick McGorry, Charles F Reynolds III, Myrna M Weissman, Dixon Chibanda, Christopher Dowrick, Louise M Howard, Christina W Hoven, Martin Knapp, Helen S Mayberg, Brenda W J H Penninx, Shuiyuan Xiao, Madhukar Trivedi, Rudolf Uher, Lakshmi Vijayakumar, Miranda Wolpert

掲載誌： Lancet DOI： [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(21\)02141-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(21)02141-3)